

花木の生産振興

要約

- 産地活性化のために定年帰農者等への支援をおこなった。
- 省力凍害対策について展示圃を設置し、県事業を活用してハナモモの新植をすすめた。

現状(背景)と課題

南部管内には、五條市を中心として古くからの切り枝花木の産地がある。コウヤマキ等20年生以上の成園が多くあるが、高齢化により産地が縮小化傾向にある。また、主要品目であり、市場からの需要も高いハナモモが老木化し、さらに近年の気候の変動により凍害が発生し、新梢の伸長不良や、苗木～若木での枯死症状の発生もあり影響が出ている。

- ①担い手対策 身近な人を担い手にしていきたいという意向があり、対策が必要。また、新たな品目の導入など部会活動の活性化は絶えず必要である。
- ②ハナモモの生産振興 経済樹齢が20年程で最盛期を迎え老木化が進んでおり供給が不足しているため、生産規模の維持・拡大に向けた取組が必要。また、近年の異常気象による凍害の発生し、生産が安定しないため、有効な対策が求められている。他産地等の情報を入手しながら対策を講じる必要がある。



目標

- 共選出荷箱数の維持
- ハナモモ新植面積 27a 増
- ハナモモ省力凍害対策2か所

活動内容

- ハナモモの凍害対策試験圃の設置および講習会での報告。
- クマザサの高品質生産のためにJAならけん営農指導員とともに巡回指導を実施し、出荷反省会で高品質生産のための栽培指導し、部会員の情報交換を図った。
- 定年帰農者や果樹農家に県のハナモモ産地育成支援事業の活用をすすめ、ハナモモの新植を推進。
- 関西7市場へ担当者の聞きとりを実施し、候補品目を5品目あげた。
JAならけん西吉野花木部会員、JAならけんと栽培環境等を検討の結果、新規2品目を導入。

成果

- ハナモモの省力凍害対策としてアルミ蒸着気泡緩衝資材を用いた展示圃を2か所設置し、JAならけん西吉野花木部会総会の生産技術向上講習会で結果を報告した。
- ハナモモの新植をすすめた。(のべ16名(うち定年帰農者3名、果樹生産者1名含む)、のべ54a増)
- 共選出荷箱数は昨年と変わらなかった。売上金額は対前年比100%となり維持できた。
- 新規品目としてコバノズイナ、アメリカテマリシモツケディアボロを試験導入した。

南部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係 長岡・門
花木産地振興事業



クマザサ生産巡回指導



生産技術向上講習会



省力防寒資材を被覆したハナモモ樹

普及活動のポイント

- JAならけんの営農指導員と連携をとりJAならけん西吉野花木部会役員、部会員に働きかけた。
- 部会員同士の交流を促すことによって、部会の活性化を図った。

対象の変化

- 部会員がより一層意欲をもって切り枝花木生産に取り組むようになった。

対象者からのコメント

- クマザサの出荷反省会に出席して、あまり交流のない他の集落の生産者が実際どのようにして栽培しているか情報交換できて参考になる。
- 等級や箱数などで自分なりの目標ができた。

これからの活動ビジョン

- JAならけんとJAならけん西吉野花木部会、農業研究開発センターと連携をとりながら、クマザサの品質保持試験をしながら、クマザサの出荷期間をのばすための取組を実施する。
- 定年帰農者を中心に、ほ場をお互い訪問する経営交流会等を開催し、生産物の高品質化に取り組む。
- ハナモモの省力凍害対策の効果を確認するために引き続き試験を行う。

活動体制

